Jonah: God's Grace in The Deep | Furious Rage and God's Grace (Jonah 4: 1-11)

ヨナ: 深いところにある神の恵み | 激しい怒りと神の恵み (ヨナ 4: 1-11)

イントロ:
先週は、神のことばが「2度目」に来たとき、ヨナがどのように従ったかを見ました（3章1節）。ヨナの説教の後、ニネベの人々は悔い改めました。あなたはヨナは喜んでいると思うでしょう。しかし、4章を見るとそうではないことが分かります。 1節に、ヨナはとても怒っていたことが書かれています。なぜ、ヨナは怒ったのでしょうか？ 私たちの怒りは、神の恵みに対する私たちの理解について、何を教えてくれるのでしょうか？ それに答えるために、私たちは次のことを見ていきます。a) 独善的な怒りの根源。b) 日陰の恵みの教訓。 c) 外部の人々に手を伸ばす神の恵み。

a) 独善的な怒りの根源

> 1-4節：ところが、このことはヨナを非常に不愉快にした。ヨナは怒って、主に祈った。「ああ、主よ。私がまだ国にいたときに、このことを申し上げたではありませんか。それで、私は初めタルシシュへ逃れようとしたのです。あなたが情け深くあわれみ深い神であり、怒るのに遅く、恵み豊かで、わざわいを思い直される方であることを知っていたからです。ですから、主よ、どうか今、私のいのちを取ってください。私は生きているより死んだほうがましです。」主は言われた。「あなたは当然であるかのように怒るのか。」

さて、ヨナは、神がニネベへの裁きをゆるめられたのを見たとたん、とても怒りました。1節に「ところが、このことはヨナを非常に不愉快にした。」とあります。
ヨナはアッシリア人（イスラエルの敵）に対する憎しみが強く、神の人格を恨んだのです！ヨナは祈って、2節で「ああ、主よ。私がまだ国にいたときに、このことを申し上げたではありませんか。それで、私は初めタルシシュへのがれようとしたのです。」と言いました。 ヨナはヘブライ人、つまり神に選ばれた民であることを好んでいました。彼は自分の国を愛していました。しかし、彼はニネベを憎んでいました。 自分の国や民族のアイデンティティーを愛することは良いことです。しかし、自分の国のアイデンティティーを偶像化することは、優越感をもたらし、他人を侮蔑することになります。 極端なナショナリズムは人種差別になり、ファシズムにつながることもあるのです。では、ヨナが神から逃げた本当の理由は何だったのでしょうか（1章）。

ヨナは、「私は、あなたが情け深くあわれみ深い神であり、怒るのにおそく、恵み豊かであり、わざわいを思い直されることを知っていたからです。」と言っている。これがヨナの深い問題だったんですね。ヨナはヤハウェ（イスラエルの神）が恵み深く、情け深いことを知っていました。 彼の言葉は、出エジプト記34:6にある「主、主は、あわれみ深く、情け深い神、怒るのにおそく、恵みとまことに富み、」と言う言葉を反映しています。ヨナは恵みを理解していないのです。 もしヨナがイスラエルの神が恵み深く、「怒るのにおそい」ことを知っていたなら、なぜそ

れが彼を大いに怒らせたのでしょうか？ ヨナの考えでは、アッシリアはテロリストのような国家だったからです。彼らは慈悲ではなく、裁きにしか値しないのです。このことに聞き覚えはありませんか？ クリスチャンは、神が恵み深く慈悲深い方であることを頭では理解しています！私たちは、神の恵みと愛について歌い、聖書の中でそれを読んでいます。ヨナが苦悩の中で叫んだように（2章）、私たちは神に赦しと恵みを求めます。しかし、なぜ私たちはすぐに怒り、恵みを与えるのが遅いのでしょうか？ ヨナが基本的に言おうとしているのはこうです。「あなたが恵み深く、慈悲深く、愛に満ちた神であることは知っていますが、今回はやり過ぎです！」

神の恵みは、あなたの頭から心に染み込んでいますか？　日常生活の中で、怒りの引き金となるものは何でしょうか？ 問題は、何が私たちを怒らせるのかではなく、なぜ私たちは怒りで内面を燃やすのか、ということです。怒りは、富士山の火山の溶岩のようなものです! 溶岩はゆっくりと蓄積され、地震がきっかけで噴火する準備をしています。日々のイライラや不満が少しずつ蓄積され、燃えるような怒りに変わっていくのです。それは、小さな指摘、不快感、鼻で笑われたこと、拒絶された感情によって引き起こされるのを待っているのです。これは、ソーシャルメディアや、職場、家庭、大学での日常的なやりとりの中で、日々起こっていることです。政治的なイデオロギー、あるいは人生における価値観が、他人を軽蔑し、怒りの引き金になることもあるのです。確かに、ニネベのような悪の町は、呼び出されるべきです！しかし、ヨナは聖句を正しく用いていないのです! ヨナがすべきことは、ニネベに対する神の恵みと憐れみについて教えることでした。神の恵み以外のものが彼を失望させたのです。だから彼は、3節「ですから、主よ、どうか今、私のいのちを取ってください。私は生きているより死んだほうがましです。」と言うのです。これが分かりますか？

神がイスラエルにとって国家的な脅威であるアッシリヤを滅ぼさなかったので、ヨナはすべての目的を失いました。彼は落ち込み、失望しています。ヨナの怒りは常軌を逸していて、絶望と霊的な落ち込みにつながります。なぜなら、偶像はいつも最後にはあなたを失望させるからです。そこで神は、4節で「あなたは当然のことのように怒るのか。」とヨナに尋ねました。ヘブライ語の「怒り」とは、「怒りで熱く燃え上がる」という意味です。神はどこまで人に恵みを示すべきだと思いますか？ 多くのクリスチャンは、「神様は恵み深く、憐れみ深い方だ！」と言います。しかし、私たちのプライドが傷つけられたり、怒られたりすると、私たちは愛情を引き下げ、距離を置くようになります。なぜでしょうか？ 神の恵みは、私たちの頭から心へと染み渡る必要があるのです。次にこのことを見ていきます。

b) 日陰の恵みの教訓

> 5-9節：ヨナは都から出て、都の東の方に座った。そしてそこに自分で仮小屋を作り、都の中で何が起こるかを見極めようと、その陰のところに座った。神である主は一本の唐胡麻を備えて、ヨナの上をおおうように生えさせ、それを彼の頭の上の陰にして、ヨナの不機嫌を直そうとされた。ヨナはこの唐胡麻を非常に喜んだ。しかし翌日の夜明けに、神は一匹の虫を備えられた。虫がその唐胡麻をかんだので、唐胡麻は枯れた。太

陽が昇ったとき、神は焼けつくような東風を備えられた。太陽がヨナの頭に照りつけたので、彼は弱り果て、自分の死を願って言った。「私は生きているより死んだほうがましだ。」すると神はヨナに言われた。「この唐胡麻のために、あなたは当然であるかのように怒るのか。」ヨナは言った。「私が死ぬほど怒るのは当然のことです。」

5節にある「ヨナは都から出て、都の東の方に座った。そしてそこに自分で仮小屋を作り」という言葉に注目してください。ニネベに神の恵みについて教える代わりに、彼は「都から出た」のです。彼は出て行き、「都の中で何が起こるかを見きわめようと、その陰のところに座った。」のです。ヨナはルカ15章に登場する放蕩息子の兄のようですね。兄は弟が帰ってきたことを祝うことができなかったことを思い出してください。 ヨナは怒っていますが、反抗的でもあります。彼はアッシリア人に神の恵みを体験してほしくなかったのです。ヨナは裁きを求めました。ヨナは正義を求めました。ヨナは破壊を望みました。ヨナは丘の中腹に座って、神が怒りを注がれるのを見たかったのです。では、神は何をされるのでしょうか。6節にこうあります。「神である主は一本の唐胡麻を備えて、ヨナの上をおおうように生えさせ、それを彼の頭の上の陰にして、ヨナの不機嫌を直そうとされた。」神の優しさがわかりますか？神はヨナを「不愉快さから」救うために植物を任用されました。少し前で神は、反抗的なヨナを救うために、憐れみ深く魚を任用されました。そして今度は、怒ったヨナに日陰を与えるために植物を任用されました。神はとても忍耐強い先生です。そして、あなたや私にも長年にもわたって忍耐強く教えてこられました。「ヨナはこの唐胡麻を非常に喜んだ」分かりますか？ 怒っている預言者が初めて微笑んだのです。彼は「この唐胡麻を非常に喜んだ。」ヨナは神様の祝福の心地よさを体験しているのです。しかし、7節によると、「しかし翌日の夜明けに、神は一匹の虫を備えられた。虫がその唐胡麻をかんだので、唐胡麻は枯れた。」とあります。 なぜ、神はこのようなことをされたのでしょうか。

もし私たちが自分の快適さを偶像化するならば、神はそれを明らかにする方法を見つけてくださいます。 神はヨナに、ご自分が真の慰めの源であることを示されたのです！ヨナの心地よさを奪うのに必要だったのは、たった一匹の小さな虫でした！その植物は枯れて、死んでしまったのです。そして、8節にこう書いてあります。「太陽が昇ったとき、神は焼けつくような東風を備えられた。太陽がヨナの頭に照りつけたので、彼は弱り果て」ヨナは今、何の力もなく、気絶するほど、弱くなったのです！神はヨナに何を示されているのでしょうか？ 弱さの中でこそ、神の恵みが私たちに必要なすべてであることを経験するのです！ 快適な領域から外れるとき、あなたはどのように感じますか？ あなたの究極の快適さの源は何ですか？ 現代社会では、私たちは何でも持っています。しかし、私たちは空っぽで、もろく、思い通りにならないとすぐに動揺してしまいます。いいですか、天と海と地の神だけが、私たちの真の慰めなのです。神は、あなたの人生において、何よりも、あなたの全てでなければならないのです 。植物も、虫も、熱い風も、すべて神から来たものです。 神があなたの全てであることを悟ったとき、あなたは本当に神の恵みを理解し始めるのです。 ヨナは教訓を学んだのでしょうか？ いいえ。8節によると、ヨナは「自分の死を願って言った。「私は生きているより死んだほうがましだ。」と言いました。しかし、9節、神はヨナに「この唐胡麻のために、あなたは当然であるかの

ように怒るのか。」と言われました。そして彼は「私が死ぬほど怒るのは当然のことです。」と言いました。ヨナは彼の偶像が壊されたので、落ち込み、疲れ果て、激怒しています。 彼の身勝手な怒りは、熱の下にさらされたのです。まさに放蕩者のたとえ話の兄のように、ヨナはニネベに対する神の無償の憐れみに耐えられなかったのです。最後に次のことについて見ていきます。

c) 外部の人々に手を伸ばす神の恵み。

> 10-11節: 主は言われた。「あなたは、自分で労さず、育てもせず、一夜で生えて一夜で滅びたこの唐胡麻を惜しんでいる。ましてわたしは、この大きな都ニネベを惜しまないでいられるだろうか。そこには、右も左も分からない十二万人以上の人間と、数多くの家畜がいるではないか。」

ヨナは植物の死に激怒しました。彼は、実際のところ植物を憐れんで起こっていた訳ではありません。なぜなら、10節にある「憐れむ」という言葉は、ヘブライ語では2つの意味があるからです。それは、「憐れみをもって見ること、残念がること」です。 ここでは、ヨナは個人的な快適さ、安全さ、便利さへの愛が奪われたので、植物が死んだことを残念に思ったという意味です。しかし、11節で神は「ましてわたしは、この大きな都ニネベを惜しまないでいられるだろうか。」と言われます。この憐れむという言葉は、"憐れみをもって見つめる "という意味です。つまり、ヨナはニネベの人々よりも、植物の陰を気にしているのです。しかし、神はヨナにこう言われたのです。「このニネベという大きな都を見よ。12万人の罪人がいる。彼らは自分の右手と左手を知らない。（何をしているのか分かっていない） 彼らはわたしなしで迷っている。わたしは彼らを憐れむべきでないか」と。
神が言っているのはつまり、「ヨナよ、お前は日陰を与えてくれた植物に同情しているのか！おまえが働いて植えたわけでもなく、育てたわけでもなく、それはただ一晩で生え、枯れたのだ。わたしのかたちに造られた12万人の民と、すべての家畜を、わたしは憐れむべきでないのか。もし、植物がもはやあなたに日陰を与えないことに腹を立てるなら、この都が私に栄光をもたらせないことに、わたしは怒るべきではないのか。ヨナ、わたしはこの都を憐れんでいるのだ。」ということです。神はヨナやイスラエル人だけでなく、異教徒の船員やニネベ人に対しても限りない憐れみを持っておられたことが分かります。

ヨナの召命は、「あなたがたの天の父があわれみ深いように、あなたがたも、あわれみ深く」すること（ルカ6:36）でした。しかし、ヨナの愛情は歪んでいました。ヨナは、何千人もの人々の霊的な運命よりも、自分自身の快適さを気にしていたのです。私たちはどうでしょうか？ 神は、救われようとしている「私たち」だけでなく、この街にいる救われていない人々にも大きな憐れみをかけておられるのです。救いが恵みによるものであるならば、私たちは他の人にも恵みを受けてほしいと願うべきではないでしょうか。神は言われます。「わたしは彼らをわたしの怒りから免じてやるべきではないか。12万人の罪人のために、わたしの怒りから日陰を与える

べきではないだろうか。わたしは恵み深く、憐れみ深く、怒るのにおそく、揺るぎない愛に満ちている神だ。」

庭師が大切に育ててきた植物が、枯れて死んでしまうのを見るとき、庭師はどんな気持ちだと思いますか？ 神はニネベのことを、庭師よりも大きな憐れみを持って感じておられるのです。神が言われているのはつまり、「ヨナ、お前の怒りや不快感や痛みは、わたしのものに比べれば、たいしたことはない！わたしは、わたしに似せて造られた人々を憐れむべきではないのか？わたしがいなければ滅んでしまうような罪人に対して、憐れみを持つべきではないのか。」

これは、私たちクリスチャンにとって、どのような意味を持つのでしょうか。もしあなたが人々のことを気にかけるなら、都市のことも気にかけるでしょう。なぜなら、都市は神のかたちに造られた人々でいっぱいだからです！神は都市を愛しておられ、私たちもそうであるべきです。 世界の人口の半分以上が都市部に住んでいます。東京は最も戦略的な世界都市の一つです。神は、私たちが友人や家族のところに行き、神の恵みの福音を伝えるために、ここに私たちを置かれました。家庭や近所や職場で、キリストの恵みを示すことを望んでおられます。

ヨナがニネベのことで怒っていたとき、神はヨナを慰めるために植物を任用されました。そして、神はヨナに彼の怒りの根源を見せるために、虫と灼熱の風を任用されました。しかし、ヨナはどのように反応したのでしょうか。 この最後の問いかけにヨナがどう答えたかは、何も語られていません。なぜなら、この物語はヨナが主役ではないからです。 明らかに、ヨナは自分の不従順さで死に値するのに、神によって救い出されたことを忘れていました。ヨナが神から逃げ出したとき、神は嵐を送られました（1章）。ヨナが水の中で溺れた時、神は大きな魚を遣わしてヨナを助けました（2章）。それはすべて、神が恵みと憐れみ、愛と慈しみに満ちていることをヨナに示すためであったのです。

では、神の憐れみが最もよく現れているのはどこでしょうか。 この3週間で見たように、マタイ12: 40-41で、イエスはこう言われました。

> 「ヨナは三日三晩大魚の腹の中にいましたが、同様に、人の子も三日三晩、地の中にいるからです。ニネベの人々が、さばきのときに、今の時代の人々とともに立って、この人々を罪に定めます。なぜなら、ニネベの人々はヨナの説教で悔い改めたからです。しかし、見なさい。ここにヨナよりもまさった者がいるのです。」

ヨナより偉大な方が今日ここにいるのです ！ イエスはヨナよりも偉大な方で、エルサレムの町を憐れんで涙を流されました。イエスは、私たちの罪のために、エルサレムの町に行き、城壁の外で十字架につけられました。ヨナは3日3晩、大魚の腹の中にいましたが、助け出されました。イエスは3日3晩、神の怒りの波の下に埋もれました。しかし、それは私たちの罪のためでした。イエスは、私たちが受けるに値しない恵みを受けるために、私たちが受けるべき神の怒

りを受けられたのです。しかし、イエスは3日目によみがえられ、イエスを信じるすべての人に罪の赦しを与えました。ヨナより偉大な方がここにおられます！イエスはヨナができなかった完璧な人生を送られました。イエスが神の裁きの嵐の中に投げ出されたのは、私たちが相応しくない憐れみを受けるためでした。イエスは、私たちの罪のために、より偉大な死を遂げられました。イエスは、私たちが受けるに値しない復活を与えるために、ヨナよりも優れた復活をされたのです。神は、あなたに対して恵み深い方です。あなたに対する愛情が優しいのです。怒るのが遅く、愛に満ち溢れています。

2ペテロ**3**章**9**節：

> 「主は、ある人たちがおそいと思っているように、その約束のことを遅らせておられるのではありません。かえって、あなたがたに対して忍耐深くあられるのであって、ひとりでも滅びることを望まず、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。」

神はあなたに対して忍耐強く、あなたが滅びることを願っておられません。神は私たちの反抗のために、イエスに怒りを注いでくださいました。私たちが受けるべきものによってではなく、神の恵みによって私たちを扱っておられるのです。私たちに対する災いを和らげるために、神は御子を犠牲にされました。私たちを罪の破滅から救うために、イエスは命をかけられました。

神は今日、あなたが悔い改めに至ることを望んでおられます。私たちは街に対してどのような態度をとるべきでしょうか？ イエスのように憐れみを示すことです。私たちの快適な生活の外にいる人々に手を差し伸べるには、涙、時間、心痛、痛み、エネルギー、資源を必要とします。それは、まさにイエスが私たちのためにしてくださったことなのです。